

探究 ひとを想い 先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所 www.wakayama-jc.net

Report

2019年1月15日(火) ホテルグランヴィア和歌山

新春交歓会

地区大会準備委員会 副委員長 辻本智子

2019年1月15日(火)、ホテルグランヴィア和歌山にて新春交歓会を開催いたしました。当日は大変多くの方にご臨席を賜り、誠にありがとうございました。

和歌山青年会議所が2019年度の最初に行う事業がこの新春交歓会です。本年度の運動方針を関係諸団体に広く発信するために委員会メンバーが一丸となりこの事業に取り組みました。

委員会メンバーの精力的な働きと、同室のひととひとを結ぶまちづくり委員会メンバーの協力のおかげで、大きなトラブルもなくスムーズに進行することができました。

オープニングでは岡なづき様にサクソ演奏を披露していただき、盛大な新春交歓会のスタートを切ることができました。森下直前理事長による2018年度事業報告に続き、山路理事長による所信表明がなされ、山路理

事長の志が込められた想いが出席者の皆様にも伝わったことと思います。各委員長からも委員会目標を発表してもらい、熱い意気込みを感じることができました。

メンバー同士で目標を共有し、一丸となって本年度の運動に取り組んでまいります。



会員拡大を呼びかける会員拡大委員会メンバー



山路理事長の所信表明



乾杯の音頭をとる初田シニアクラブ会長



岡なづき様によるサクソ演奏



お見送りするわとらん



鏡開き



全員で記念撮影

2019年1月19日(土) 京都

京都会議・LOMナイト

地区大会準備委員会 副委員長 小野託摩

2019年1月18日(金)から20日(日)にかけて開催された京都会議に伴い、京都会議LOMナイトを開催いたしました。遠方にもかかわらず多くのメンバーに参加していただきました。毎年京都会議を迎えると新たな一年の始まりを感じ、身が引き締まる思いがします。

例年とは趣向を変え、会場を円山公園近くの京料理・鍋料理鳥久とし、竹林の庭の風情ある景色を楽しみ、昔ながらの京都の雰囲気に触れることができ、参加者からは好評をいただくことができました。

出向者の皆様を紹介し、出向先での抱負を発表していただいた際には、出向者の皆様の姿がとても意欲的に感じら

れ、頼もしくも見受けられました。メンバーからも出向者を激励し、終始楽しげで、和やかな雰囲気の中で、進行しました。メンバー同士の結束が強まり、本年度の運動に向けて幸先の良いスタートが切れたと思います。



出向先で委員長を務める石井勇気君 香港沙田から駆けつけた Yannes Wong



国際会館で記念撮影



担当した地区大会準備委員会

2019年2月1日(金) JR和歌山駅前・南海和歌山市駅前

北方領土返還要求街頭啓発運動

国際交流委員会 委員 堀田貴章

北方領土問題に関して、市民の皆様に関心と理解を深めていただくべく、本年も街頭啓発運動を行いました。

北方領土返還要求運動和歌山県民会議の皆様とともに、例年と同じく、JR和歌山駅及び南海和歌山市駅にて、合計2700枚のチラシを配布しましたところ、本年も全てのチラシを市民の皆様を受け取っていただくことができました。

和歌山青年会議所としましては、比較的近年に入会したメンバーが、熱意を持って、積極的に配布活動を行う姿が目立ったこと、またそれを受けて、チラシを好意的に受け

取っていただく市民の方々が多くいらっしゃったことから、効果的な啓発活動が行えたと考えます。

この活動は、県内全域にて各地の青年会議所でも行っており、和歌山県全体としても大きな成果が得られたと思われます。

北方領土の帰属を巡っては、本年1月に両国間で首脳会談が行われたものの結論には至らず、今後の進展が注目されています。和歌山青年会議所といたしましても、今後も市民の皆様とともに、継続的に北方領土問題に取り組んでいきたいと考えています。



チラシを配る山路理事長



南海和歌山市駅前で記念撮影



JR和歌山駅前で記念撮影

2019年1月22日(火)

Report

1月度例会・拡大セミナー～拡大なくして未来はない～

会員拡大委員会 委員長 玉置清正

1月度例会にて拡大セミナーを開催し、多数の現役会員の皆様にご参加いただきました。

「拡大なくして未来はない」のテーマのもと、会員拡大委員会副委員長 尾藤大輔君・本田博則君によるパワーポイントを使った講演は力のこもった内容で、現役会員の胸に拡大運動の大切さを刻み込むものでした。また、第二部では会員拡大運動に対する参画意識を高めるために、各委員会に分かれ「JCIへ入会した動機」、「JCIで学んだこと」、「候補者へのアプローチ方法」を題材にグループワークを行い、会員拡大の意義や目的を学んでいただきました。「目標人数50名」を達成するために、予定者段階から委員会メンバー一同で事業構築をしてきたこともあり、今回の拡大セミナーが盛況に終わったことは皆様のお力添えのおかげです。

本年度の期首会員数が119名、卒業予定者数が23

名、35歳以上の会員数が7割近いという危機的な状況にあり、数年後には現在の事業規模を維持することは極めて困難となります。会員拡大は当委員会だけの問題ではなく、和歌山青年会議所全体の問題として、現役会員一人ひとりに危機感を持っていただきたいと思います。どうか皆様のお力添えのほど、よろしくお願いいたします。



山路理事長の挨拶



会員拡大委員会の玉置委員長



グループワークの様子



会員拡大委員会メンバー

3月度告知

3月度例会

3月17日(日)9時30分から 和歌山市立青少年国際交流センター

和歌山市加太にあります「和歌山市立青少年国際交流センター」にて、～役立つ防災コミュニケーション！ピザがつなが笑顔の輪！～と題して、家族交流例会を開催いたします。

台風や地震などの自然災害が多発している昨今、いざ災害が発生したときに対応できるように備えておく必要性は日に日に高まっており、災害時に役に立つ知識を習得していただけるように企画しました。また、和歌山青年会議所の例会の場をご家族にも見ていただける良い機会となっております。さらに、会場は昨年12月に加太少年自然の家をリニューアルした施設となっております。

当日は、楽しくピザを焼いて食べながらメンバーとその家族との親睦を深め楽しみたいと考えていますので、ぜひご家族をお誘いあわせの上ご参加いただけますようお願いいたします。また、当日は動きやすい服装でお越しください。

例会委員会一同、ひとりでも多くの皆さまのご参加を楽しみにしております。

(例会委員会 委員長 田代紘規)

事務局だより



役職変更 会員 重根一真 君
和歌山警備保障株式会社
代表取締役就任

2月号記載内容の訂正とお詫び

2月定時総会の場所を誤って記載しておりましたこと、お詫び申し上げます。

【誤】ホテルグランピア和歌山 6Fル・グランA

【正】ルミエール華月殿 5階 八州の間

3月 スケジュール

6	水	第5回財政規則審査会議	事務局
8	金	第6回三役会	事務局
12	火	理事会	商工会議所
16	土	那賀JCIゴルフコンペ	紀の国カントリー倶楽部
17	日	3月度例会	和歌山市立青少年国際交流センター
19	火	近畿地区正副会長会議	姫路市
20	水	近畿地区役員会議	姫路市
21	木	海南JCIゴルフコンペ	国木原ゴルフ倶楽部
22	金	第6回財政規則審査会議	事務局
24	日	第3回委員会会議	岩出市
26	火	第7回三役会	事務局
28	木	委員長会議	あいあいセンター
31	日	新宮JCI50周年ゴルフコンペ	新宮市

わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「城プロジェクト」編

取材協力：一般社団法人城プロジェクト 代表理事 川島寛昭 様

1 事業の概要

一般社団法人城プロジェクトでは、和歌山市からの委託事業として和歌山城の魅力を向上、充実させる事業を行っています。

その1つが「おもてなし忍者」です。忍者の姿をして道案内や写真撮影のお手伝い、高齢の方や障がいのある方が登城するのをサポートしています。もう1つが和歌山城天守閣前で「お天守茶屋」（「おてんすちゃや」と読みます。）という名称で売店を運営し、和歌山産の素材を使って軽食を提供したり、お土産物を販売しています。



2 「おもてなしの心」と「バリアフリー」

和歌山城は本来は要塞として建てられたものです。ですから、当初は敵が攻め込みにくいようにさまざまなバリアが張り巡らされていました。ところが時代が変わり、要塞から観光地へと役割が変わってしまうとそのようなバリアはお城を訪れる方にとって近寄ることを阻むバリアになってしまったのです。その1つが急な坂・階段です。高齢の方、足が不自由な方にとっては、天守閣まで登ることができないということになってしまいます。

和歌山市のシンボルともいべき和歌山城に登ることができない方がいるのに放っておいていいのか？観光都市和歌山にふさわしいシンボルといえるのか？という問題意識を持ち、①観光都市和歌山の名にふさわしい「おもてなしの心」にあふれた和歌山城、②ふるさと和歌山に誇りを持つ人材の育成の場としての和歌山城、③真のバリアフリーを目指す和歌山城、これらを実現していくことを目的として、城プロジェクトは平成23年3月に結成されました。

ところが、バリアフリーを進めると言っても簡単なことではありません。和歌山城は歴史的価値のある史跡であり、スロープや手すりを設置することは景観や史跡としての価値を損なうことになってしまうからです。「バリアフリーの実現」と「史跡の保護」は相反する考え方であり、この2つを調和・共存させることが困難であるということが分かってきました。スロープや手すりを設置するにしても、学芸員さん、福祉の専門家、市の担当の方たちとも何回も話し合い、スロープとしての機能や安全性を保ちつつ景観を損なわないように工夫を凝らしておりますが、本当に難しい問題だと思えます。

このようにスロープや手すりの設置というハード面だけでは解決できない問題があります。そこを埋めるのがソフト面での解決だと思えます。忍者の格好で様々なおもてなしをしつつ、足の不自由な方がいらっしゃったら登城のお手伝いをする。このようなおもてなしの心を持つてお手伝いすることで、ヒトとヒトとが触れ合い、交流が生まれます。単にバリアを除去するだけでなく、観光客とスタッフとの間でコミュニケーションや思いやりの気持ちが生まれ、さらに史跡の魅力や歴史的価値も伝えることができるようになったのです。

このように史跡の保護とバリアフリーを共存させる形の事業というのは全国的にも和歌山城が初めてということとして、国土交通省から表彰していただいたり、他のお城からも問い合わせや見学にいらっしゃったり、賛同していただけるボランティア団体からスロープの寄贈を頂いたり、少しずつ私たちのしてきたことが認められてきました。

私たちの活動は観光客を増やすことを目的としているわけではありません。ですが、このような「おもてなしの心」を持って接することで、和歌山に良い印象を持っていただくことができ、結果的に観光



客の増加という面でお役に立つことができればと思っています。

3 今後の展望

和歌山城は史跡という歴史的価値だけではなく、文化的な建物、動植物などの豊かな自然といった様々な魅力があります。そのような魅力を活用し、いろんなことを学ぶことのできる場所にしていきたい、いわば「和歌山城大学」と呼ばれるような場所にしていくことが私たちの夢です。

例えばおもてなし忍者のスタッフは大半が大学生のアルバイトなのですが、ただ単にバイトをして終わるというのではなく、おもてなし忍者をすることで、観光学部なら観光面で、経済学部なら経済面というように自分の勉強につなげることを意識するようにとアドバイスしています。スタッフの中には外国の方もいますが、和歌山の歴史や文化を学んでもらう格好の場所となっています。和歌山城のこのような魅力を活かしてもっと工夫すれば、いろんなことができる可能性があると思います。もっとみんなでチャレンジして、経済効果を生むお城、みんなに喜んでもらえるお城にしていきたいと思えます。

4 和歌山青年会議所に期待すること

和歌山に住んでいて感じるのは、和歌山は魅力のある土地なのに、それを外部に発信するのが下手だということです。これは和歌山に住まわれる多くの方が感じていらっしゃるのではないのでしょうか。外部への発信という意味では和歌山青年会議所さんは強い力をお持ちです。例えば昨年夏にはふんだら祭り50周年企画として和歌山城天守閣でお化け屋敷をするという事業をされておられました。これはすごいことなんです。天守閣を借りるというのは本当に難しいこととして、誰でも借りられるようなものではありません。このような企画を実現できたのは、和歌山青年会議所さんの長年の実績と各方面との強いネットワークをお持ちであるからだと思います。

和歌山城をより良くしていくことに協力していただきたいという想いもありますが、それに止まることなく、みなさんの力をいろんな方面で発揮していただいて、和歌山全体の発展に活かしていただきたいと思えます。



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西汀丁36番地(和歌山商工会議所5F)
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693
URL : <http://www.wakayama-jc.net>
mail : office@wakayama-jc.net

